

河川空間のオープン化

河川敷地占用許可に係る規制が緩和され、平成23年4月から都市及び地域の再生等に資する目的で民間事業者が河川敷地を利用できるようになりました。名古屋市でもこの制度を活用して、民間事業者による堀川の水辺活用を推進しています。水辺空間の主な利用方法としては、オープンカフェ、飲食店のテラス席、イベントスペースなどの利用が想定されます。

納屋橋地区におけるオープンカフェとしての利用

納屋橋地区では、川沿いに遊歩道を設置しており、隣接する飲食店は遊歩道側に出入口を設置したり、遊歩道上にオープンカフェを設置するなど、水辺の活用を行っています。



堀川における水辺の活用をお考えの方は
お気軽にお問合せください。

名古屋市緑政土木局河川計画課（堀川担当）

TEL 052-972-2891 FAX 052-972-4193

MAIL a2881@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp

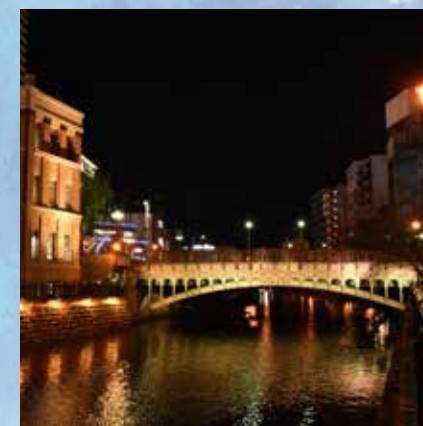


ホリゴン

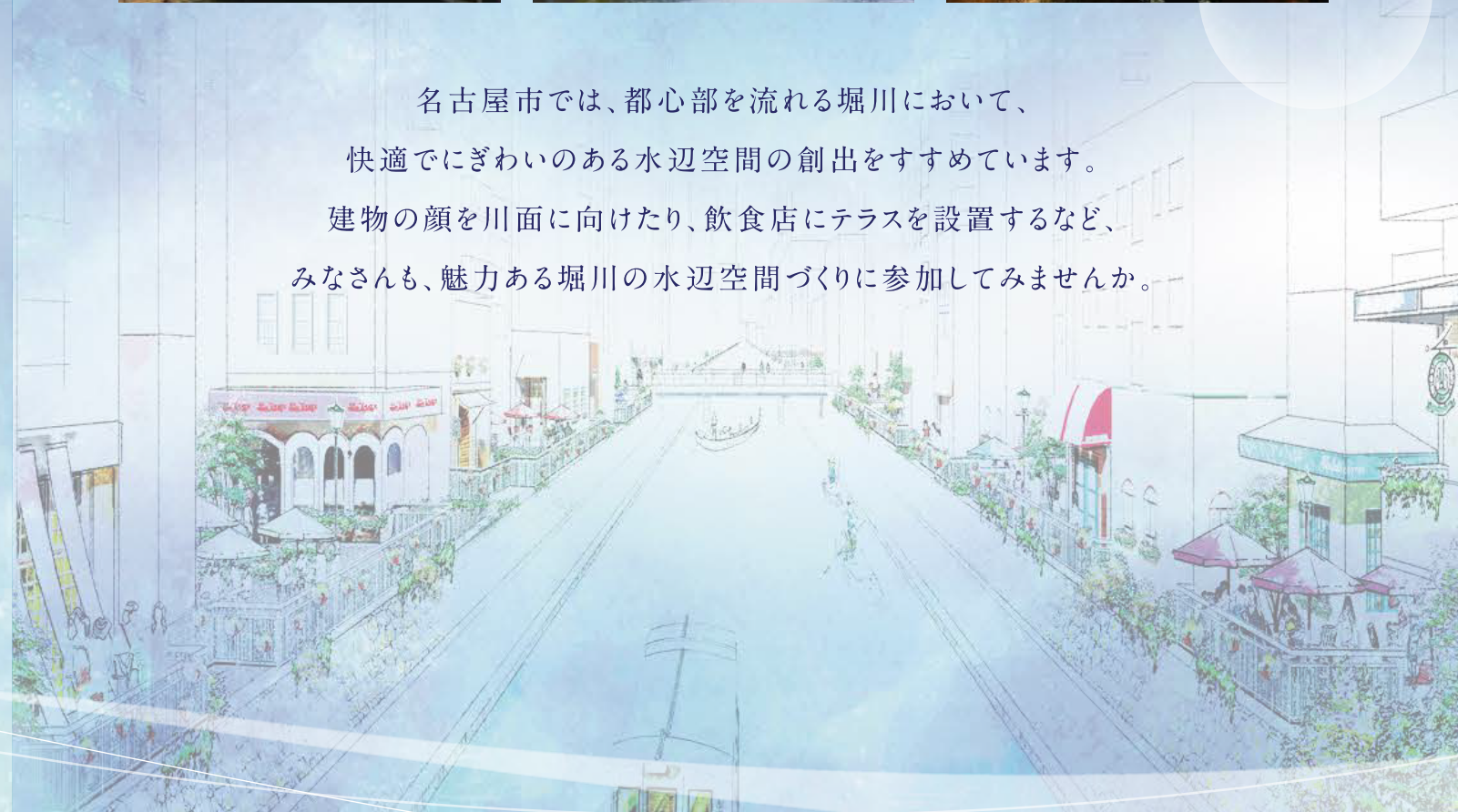
「堀川を清流に!」をキャッチフレーズに
頑張っている堀川のイメージキャラクターです。
市民のみなさんが堀川の再生を願って
頑張っているところを応援しています。

堀川を活かした 魅力ある 水辺空間づくり

～堀川における河川空間のオープン化～



名古屋市では、都心部を流れる堀川において、
快適でにぎわいのある水辺空間の創出をすすめています。
建物の顔を川面に向けたり、飲食店にテラスを設置するなど、
みなさんも、魅力ある堀川の水辺空間づくりに参加してみませんか。



“堀川をみんなで活かす”

堀川には、古くから 培われた名古屋の歴史や文化、人々の生活とのつながりなど、特有の資源が多くあります。名古屋市では市民のみなさんとともに、名古屋の「顔」「誇り」となる堀川の水辺空間形成を目指しています。

堀川ヒュッテ（親水テラス 社会実験）

納屋橋地区の河川空間において、水辺に張り出した親水テラスを設置し、アウトドア気分を味わえる飲食イベントを開催しました。アコースティック音楽ライブを開催したり、ライトアップにより夜景を演出して、イベント期間中は多くの人でにぎわいました。



▲ 昼の堀川ヒュッテ



▲ 夜の堀川ヒュッテ

水辺空間の「メリット」

開放的で、風景がよい

川を望むと広い空間があり、風景がよく、心が和みます。

日当たりや風通しがよい

空間が開けているため、日当たりや風通しがよくなります。

季節や歴史を感じる

川から季節を感じたり、名古屋城や熱田神宮に通じる歴史も感じることができます。

にぎわい、憩いの空間である

昔から水辺ではお花見など多くのにぎわいがあり、今も心を和ませる場所となっています。

事例

かわてらす （東京都・隅田川）

東京の隅田川では、川に隣接する飲食店等が水辺空間にデッキを設置し、テラス席から川を望みながら飲食できるよう水辺空間を活用しています。



事例

北浜テラス （大阪市・土佐堀川）

大阪都心部の北浜地区では、土佐堀川の水辺を楽しもうという機運が高まり、地域が中心となって協議会を設立して、川沿いの店舗がテラス席を設置し、水辺利用を推進しています。



イメージ図